▲　日光を受け白色白光の輝きを放つ白もも（４月８日・渡邊勝文氏宅）

慧光

金光寺寺報
第２０２号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月法語カレンダーのことば

回心というは自力の心をひるがえしすつるをいうなり

今月のことばは、親鸞聖人の著作『唯信鈔文意』の一節です。

「回心」という言葉は、一般的には「かいしん」と読み、これまでの誤った心を改めることをいい、「改心」と同じ意味で用いることもあります。キリスト教などでは、過去の罪の心や生活を悔い改めて、神の正しい信仰へ心を向けることを「回心」というようです。仏教ではこれを「えしん」と読み、もともとの心をあらためて正しい仏道に向かうことをいいますが、浄土真宗では、自力の心をすてて他力に帰することを「回心」というのです。

親鸞聖人は『教行信証』に「愚禿釈の鸞」と自らの名を名のり、「建仁辛酉の暦」とその時も示して、「雑行を棄てて本願に帰す」と自らの回心について記されています。この時、九つの時から二十年もの間、学問修行をされてきた比叡山に別れを告げ、吉水の法然聖人のもとに行く決意をされた、というのです。親鸞聖人は回心されて後、比叡山での学問修行を「雑行」といわれ、法然聖人によって出遇った念仏往生の教えのことを「本願」といわれたのです。

「雑行」に対する言葉は「正行」ですから、親鸞聖人の「回心」が、「依るべき行を転換した」ということであるならば、本来ここでは「雑行を棄てて正行に帰す」あるいは「諸行を棄てて念仏に帰す」というべきでしょう。しかし、親鸞聖人の回心が「依るべき行を諸行から念仏に転換された」というだけではなく、「本願他力の心に帰する」ということであったということをあらわしている、ということになるでしょう。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏教用語豆辞典

流転

『闘牛』『天平の甍』『氷壁』などで有名な作家の井上靖氏が亡くなりました。

氏は大学を卒業した昭和十一年に『流転』という時代小説を書き、「サンデー毎日」千葉亀雄賞を受賞しました。

「流転」の原語は古代インドの「サンサーラ」で、「流れること」を意味します。この語はまた「輪廻」とも訳されていますから、流転と輪廻は同義語なのでしょう。

流転も輪廻も、生まれ変わり死に変わり、迷いの世界をさすらうことをいいます。

『無量寿経』に「これを以て生死の流転、休止あることなし」とあります。

流転輪廻、流転無窮、流転生死、流転還滅、そして出家剃髪のときに唱える「流転三界中」など、さまざまな熟語を生みました。

そこから、この世の生活の中で、境遇などが次々に変化していくことをいうようになりました。

井上氏は『わだつみ』を、時間があれば『親鸞』を、と限りない執筆の夢を持っていたそうです。

〝井上親鸞〟は読んでみたかったナー。

（本願寺出版社発行
辻本順著敬
「仏教用語豆辞典一〇〇
PARTⅡ」から）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

◎　４月
２７日（金）　午前中

◎　５月
１９日（土）　終　日

◎　６月
１日（金）～　２日（土）
２３日（土）～２４日（日）

３月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０１８年	３月　５日	満１０３歳	
祇園町	樫　本	マキノ　様	
２０１８年	３月　６日	満３０歳	
中　入	吉　村	拓　也　様	
２０１８年	３月１４日	満７０歳	
矢惣園	杉　村	恵　様	
２０１８年	３月１５日	満８８歳	
高千穂	山　口	トシ子　様	
２０１８年	３月２８日	満６４歳	
長　峰	甲　斐	春　喜　様	

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　http://konkouji.jp/
４月９日現在　アクセス数　８１，３６５人

住職ひとりごと

いつもなら四月十日過ぎに行う寺村組合の花見、今年は今月五日に行いました。シャクナゲもちらほらと咲き始めるなど、何時になく春の訪れが早いなと思っていたら、昨日（七日）、粉雪が舞いました。油断大敵ですね。薄着をすると風邪をひいてしまいます。私は風邪をひいてしまいました。▼「油断大敵」と言えば、この言葉の由来知っていますか。説は二つあるようですが、私は次の説が好きです。この言葉の意味は油断して失敗することを戒めたものですが、天台宗の開祖最澄が開いた延暦寺の根本中堂には最澄が灯して以来千二百年間一度も消えることのない不滅の法灯があります。朝夕、燃料の菜種油を絶やさないよう足し続けています。油を断つことを戒めるところから始まったのが由来と言われます。▼西本願寺にも常夜灯があります。ご本山も親鸞聖人の法灯を絶やすことはできません。私たちも親鸞聖人からお示しいただいた阿弥陀さまの「必ず救う。その身をまかせよ」の尊いおはたらきを絶やすことはできませんね。油断大敵です。

（住職　松井卓郎）